

# 子ども読書支援センターニュース

No.257

2025.10.31



山口県子ども読書支援センター（山口県立山口図書館）発行

（電話：083-924-2113 FAX：083-932-2817

Eメール：a50401@pref.yamaguchi.lg.jp）

【メールマガジン「本はともだち～山口県子ども読書支援センターニュース」配信中！】

メールマガジン「本はともだち」は、新刊紹介や県内の行事など、より充実した内容で配信中です。読者登録の方法は県立図書館のホームページをご覧ください。

## 【山口県子ども読書支援センター行事】

\*各イベントの詳細については、当センターのホームページよりご確認ください。 ⇒



### ★「幼児のためのおはなし会」（毎月第一火曜日）

○日時：令和7年11月4日（火）12月2日（火）11:00～11:20

○会場：山口県立山口図書館 第2研修室 ○対象：幼児 ○定員：10組程度

### ★「第3回新刊児童書閲覧会」

○日時：令和7年12月18日（木）～12月24日（水）9:00～17:00

※12月22日（月）は休館日のため、実施しない。

○会場：山口県立山口図書館 第2研修室（こどもとしょしつ 3F）

○対象：市町立図書館職員、学校図書館関係者、ボランティア関係者、子どもの本に関心のある方

○定員：一人2時間、各時間帯20名程度（申込み優先・当日参加も可）

○申込方法：12月17日（水）17:00までに、電子申請又はFAX、来館（HPの要項をご覧ください。）

[https://library.pref.yamaguchi.lg.jp/center\\_annai/center\\_annai-27029/](https://library.pref.yamaguchi.lg.jp/center_annai/center_annai-27029/)

## 【新刊紹介】価格は消費税抜き

### <絵本-乳幼児から>

『ほっぺちゃん』 マコイ/作・絵 ポプラ社 2025.8 ¥1200

まんまるほっぺのほっぺちゃんがぶらんこをこいでいたら、ほっぺがぽーんととんでいった。まんまるほっぺは、くもさんのかおに“ぼつ”とくついたかとおもえば、くるくるおちてりんごさんのかおにも“ぼつ”。あちこちにころがって、さいごは…。模様や風合いの異なる紙をコラージュした貼り絵が印象的な、笑顔いっぱいの絵本。作者はイラストレーターで、絵本は本作が初。

### <絵本-3, 4歳から>

『うっかりくまさんたちのおかしなおんがくか』 へんみあやか/さく Gakken 2025.9 ¥1500

きょうはくまさんたちのおんがくか！くまおさんは、おんがくかのかいじょうでトランペットのはこをあけてびっくり。まちがえて、ねこをもってきたみたい。ほかのみんなも、バイオリンとまちがえてさつまいもをもってきたり、たいことまちがえてせんたくきをもってきたり。いったいどんなえんそうになるのかな。うっかりから生まれた一風変わったハーモニーが愉快な絵本。

### <絵本-5, 6歳から>

『どきどきしてる』 たけがみたえ/著 偕成社 2025.8 ¥1700

にわとりは、あさいちばんにおおきなこえをだして、どきどきしてる。さなぎは、もうすぐちようになりそうで、どきどきしてる。いっしょにけんめいはしつたいぬ、あたたかいおひさまにてらされたやま、さみしいしろくま…いきものはみんな、どきどきしてる。それぞれのしゅんかんに、それぞれのきもちで。ダイナミックな構図の版画で、生命や自然の中に響く鼓動を捉えた絵本。

### <絵本-小学校低学年から>

『3つのいしころ』 オリヴィエ・タレック/さく いわじょうよしひと/やく BL出版 2025.9 ¥1600

たかいやまのてっぺんにすむ3つのいしころは、とおくのやまをながめたり、ふもとのひつじをかぞえたりしてあわせにくらしていた。ところがあるあさかみなりがおちて、てっぺんからすととばされてしまう。ちやくちしたばしょでたのしくすごせたのもつかのま、いしころたちはまたおいたされ…。流されるままに転々としながらもどこか前向きな「いしころぐらし」を描く絵本。

### <絵本-小学校中学年から>

『ありんことカンナの花』 毛利まさみち/切り絵 ナムーラミチヨ/文 地平社 2025.8 ¥1600

地上で続く人間たちの戦争をしんぱいしながらも、せつせとはたらいていたありんこたち。すべてやきつくされたあとも、土の中で助け合って…。絶望を乗り越えて息づく生命力を描いた切り絵絵本。広島への原爆投下の約1か月後に、今後何十年も草木は生えないといわれていた爆心地近くでカンナの花が咲いた、という実話をもとに創作。巻末にカンナを写した当時の報道写真あり。

<読み物一小学校低学年から>

『あくびなかまとはらっぱで』 小島敬太/作 鬼頭祈/絵 偕成社 2025.8 ¥1300

風が涼しい昼下がり、子ヒツジがカルたのは、今まで食べたどんな草よりもあまい匂い。「においのみち」をたどってたどり着いたのは、二つに割れたヒヅメの仲間「ぐうていもく（偶蹄目）」だけが集まるはらっぱ。バイソン、ラクダと仲良くなつた子ヒツジは、お昼寝したり、おしゃべりしたり…。ユーモラスでのんびりとした3匹の様子に心温まる1冊。

<読み物一小学校中学年から>

『山の神の使い』 最上一平/作 ママイケダ/絵 童心社 2025.8 ¥1700

東京に住む大河（たいが）は、季節ごとに山形県の祖父母のもとへ行く。春の田植え、夏の山、秋の稻刈りなど荘厳で豊かな自然をのびのびと感じる大河。米作りを営む人々の暮らしの様子や、素朴で温かな交流を描く。農業の手伝いを通して、自然の恵みのありがたさや、働くことの充足感を感じ成長する少年の物語。力強くも透明感あふれる挿絵も魅力。

<読み物一小学校高学年から>

『オーサム！国語塾』 清水晴木/作 いつか/絵 岩崎書店 2025.7 ¥1400

自分の主張をなかなか表に出せない湊、初恋の相手に想いを伝えたい小春、クラスに馴染めていない転校生が気にかかる学級委員長の凪らは「オーサム国語塾」に通う小学6年生。塾長の今井先生から、問題の解き方について学び、そのことが日常生活の中での考え方の変化につながっていく。国語の学習を通して成長する子どもたちの姿を描く短編集。

<読み物一中学生から>

『美しくない青春』 小手鞠るい/作 さ・え・ら書房 2025.8 ¥1600

1930年に神戸市で生まれた少女ミモザは、11歳のときに始まった戦争により、大切なものを次々に奪われていく。不自由な暮らし、家族の不和、空襲の恐怖…。「美しくない」青春時代の中で、ミモザは物語や詩を読み、自らも創作をすることで、絶望に立ち向かい、生きる希望を見出していた。詩人・茨木のり子にオマージュを捧げて描く、戦争時代を力強く生きた少女の物語。

<ノンフィクション一小学校低学年から>

『変わってしまったぼくの町、ぼくの学校』 ダニール/絵と文 ERIKO/写真と訳 汐文社 2025.8 ¥1600

2022年2月ロシアがウクライナに侵攻を開始した。ウクライナの13歳の少年ダニール本人の絵と文、定住旅行家の写真によって、戦争が始まったことで変わった街や学校の様子を伝える。避難場所となった地下室、機関銃を積んだトラック、倒壊した学校、応急処置の授業内容などを紹介。巻末にウクライナのことを調べるための二次元コードあり。

<ノンフィクション一小学校中学年から>

『はじめて神経をみたサンティアゴ・ラモン・イ・カハール』 クリストイン・アイヴァーソン/作 ルチアーノ・ロサーノ/絵 坪子理美/訳 化学同人 2025.8 ¥2400

スペインで暮らす絵を描くのが好きな少年サンティアゴ。ところが父親から勉強のために絵を描くことをとめられて…。ノーベル賞科学者であり、神経学のパイオニアであるサンティアゴ・ラモン・イ・カハールの偉業を綴る伝記絵本。彼が実際に描いた神経系のスケッチの掲載あり。著者は理学療法の博士号と教育学修士号（主に児童文学を研究）をもつ。

<ノンフィクション一小学校高学年から>

『ファッショントリビュート』 レイナ・デライル/文 天沢逸里/日本語版監修 佐藤淑子/訳 玉川大学出版部 2025.9 ¥3600

どうして服を着ているのか？その服は誰がどこで作っているのか？その服の素材は？その服が捨てられた後は？ファッションを通して、環境汚染、地球温暖化、児童労働、動物福祉等、産業が抱える問題について取り上げる。環境や人に配慮したエシカルファッション、7つの「R」について学べる1冊。巻末に用語解説、索引、服に関するブックリストあり。

<ノンフィクション一中学生から>

『世界一やさしい脳科学入門 やる気が出ない理由は脳に聞いてください』 毛内拡/著 河出書房新社 2025.8 ¥1540

私たちの「楽しい」や「つらい」はすべて脳が作り出している。コミュニケーションは何のためにあるのか、メンタルを強くする方法はあるのか、AI時代の勉強は無駄なのか。具体的な実験や日常のエピソードを交えて脳の働きを解説。感情、思考、行動が生まれる脳の仕組みを知ることで、今までとは違う自己の内面との向き合い方がみえてくる1冊。

<研究書>

『肢体不自由の子どもの読書を支える』 読書工房/編 読書工房 2025.7 ¥2400

肢体不自由の子どもの教育と読書、電子書籍の活用例や、認知特性・障害との関係性を踏まえての読書の難しさと工夫を解説。特別支援学校等での読書環境の整備、おはなし会等の実践例を紹介。また障害当事者で小児科医の熊谷晋一郎氏の語りと若い世代の当事者3名のインタビューも掲載。多角的な視点でまとめられ、読書バリアフリーや読書支援への理解が深まる1冊。

※【新刊紹介】の本は、県立図書館で現在受入準備中の本です。そのため、県立図書館の蔵書検索（OPAC）では検索できませんが、利用することは可能です。収書のための選書の参考として、閲覧、貸出等を希望される方は、お問い合わせください。

山口県立山口図書館では、電子図書館サービスを提供しています。利用案内はこちらから→  
<https://library.pref.yamaguchi.lg.jp/dlibrary/>

